

盧扁 といふ語 (松筆四ノ七)

ロハ

盧簿 (松筆三ノ三六、八ノ三〇)

義解 (海録二六ノ四三)

ロホ

ろれつか廻らぬ といふ俗語 (橋菴初ノ五ノ一)

ロシ

ロウ

魯王 明の監國——の名 (譚小五ノ三)

ロン

論 の字音ロンとリンとの別 (鹽尻七ノ二三)

論議 と問答との別 (南留一ノ二) (卯花一ノ三)

講義と——との別 (卯花一ノ三四)

論語 を圓珠經といふ (閑散上ノ五) (南留一ノ二)

者言小而圓通如明珠 (了阿上ノ三〇)

は經にあらず (況齋二ノ七)

は孔子門人の編 (鹽尻九ノ六四)

は草、大學は楷 (九桂一ノ三)

三論始合 (鹽尻七ノ一〇八)

の評 (松落二ノ三〇) (玉か二四ノ三六)

清原家の訓點 (世事一)

辨訓抄 (海録一五ノ四八)

要文 (一語元ノ二六)

解義數條 (年々三ノ一六、一九)

の大車小車のよみ方 (乘燭三ノ四)

集註に偏其反面の偏を翻に作る事 (乘燭三ノ三)

名相喜讀 (隨意二ノ八)

小兒學問止 (隨意二ノ八)

古寫本の (假世三)

板ある事久し (昆陽六)

古版の (安隨四ノ五)

正平版 (如蘭三ノ三、三ノ七) (楓軒二ノ一七)

王仁獻する所の (柳隨初ノ一)

圓珠經二卷 (卯花四ノ四〇)

論語何晏集解 といふ書 (卯花四ノ四〇)

の印行者 (甲子三ノ二九)

論語集解 古本 (隨意一ノ九)

論語鄭注 (況齋ノ四)

論語筆解 といふ書 (難未ノ三〇)

論語讀の論語知らず (病問四)

ワ

和 人名の一字 (玉か二四ノ九)

他人を——といふ (松筆六ノ三)

吾 わどの、わぬし、わごりよ等の一字 (松筆五ノ三)

ワイ

賄賂 まひなむといふ詞 (孝經四ノ五)

の弊 (楮拾六)

冠冕無醜士、成知巳 (甲子六ノ七)

音物の調進所 (五月三)

立身昇進丸の效能と用ひ方 (甲子續九ノ四九)

神佛への (くせ三)

曲政 (安隨七ノ三)

決斷 (松筆三ノ三)

か贈り其子の任官を計りし者の御咎 (甲子續五ノ三五)

檢見役人の收賄と唐律 (甲子二ノ三九)

明和安永頃の——公行、幕吏の醜行 (甲子四ノ一七)

天明の——公行、情實纏綿 (甲子續三ノ一〇)

田沼時代——の相場、まことといふ信

物(五月二四)

天保改革の際にも(五月三)

開老の近臣馳走勘定書(甲子續八金ノ二四)

「ひとりて死刑となりし權門の臣の事」

(甲子七ノ一〇五)

正徳五年の禁令(鹽尻谷ノ二四)

嚴禁の諭達(甲子續六ノ三)

代官手代役人等の「につき諭達(甲子續六ノ三)」

和韻 詩の廣和(昆陽三四)

### ワウ

王 をオホキミといふ(南留三ノ五)

「の字訓(安隨九ノ二六)」

「といふ姓(況齋一ノ四九)」

王安石 論王介甫(眠雲三ノ六)

假學術、肆其姦者(隨意四ノ四)

王攸ノ十略 松筆三ノ五

王幼學 (胸餘一ノ六)

王應麟 の子(況齋三ノ〇一)

王葛阪(道島)の墓(海録一ノ五五)

王家統 のよみ方(開耕四ノ七)

王羲之 の書(胸餘三ノ三)

「の肉筆(橋窓三ノ八)

「老婆の六角竹扇に書せし話(雅俗三三)」

庭給ノ仲人(松筆六ノ九六ノ三)

橋梁 程伊川の「評(九桂一ノ三)」

王元 か詩(胸餘四ノ七)

汪克寛 (胸餘一ノ六)

黄金靈 (松筆二ノ三)

王三保 清「傳(松筆二ノ六)

王子(皇族)の稱(鹽尻六ノ五五)

王子(江戸) 安永末頃の「(明和)

王子稻荷 の古戰場(寐ぬ三ノ七)

王充 か倭説(隨意一ノ三)

王子權現 武州「(望海五)(紫ゆ二四)」

王子田樂 「(一話三ノ三五)」

王子祭の記(ひと下ノ五)

王室和尚 の謫貶(鹽尻九ノ四)

王士禎 士禎を士禎又は士正に作る事(九桂六ノ三)

王戎 の慧(鹽尻九ノ二五)

往生 といふ語は極樂のみに限らず(況齋一ノ七)

往生西方淨土瑞應傳 といふ書(鹽尻九ノ三四)

往生づくめ といふ詞(兎別下ノ五)

庭弱 (松筆九ノ二)

王肅 の同名異人(隨意三ノ四)

王春庭 明歸化人「の事(海録一五ノ四七)」

王世吉 清人「の詩(一話三ノ一〇)」

王世貞 明「(隨意一ノ七)」

十五歳の詩(胸餘三ノ九)

王昭君 をよめる歌(甲子續七ノ五六)

王維南 明の歸化人「(讀老五〇)」

襦着 といふ語(松筆六ノ五、一〇ノ七)

黄丹 (松筆七ノ八)

王寧宇 縉紫竹堂五雲子傳(牛日セノ三)

歸化清人「歿年と墓(讀老五五)」

王の鼻 「テン」天狗ヲ見

往亡 といふ日(海録六ノ四)

秋蟬蟻 といふ蟲(疑問云五)

黄蘗山 「の第一義」の題(甲子六ノ二四)

遊「詩(醍醐下ノ三)」

椀飯 黄蘗宗の流行(鹽尻六ノ四九)

椀飯の解(安隨四ノ四)

椀飯始 (松筆五ノ五)

椀飯振舞 (嬉遊五ノ五)(塵塚元)

椀破口語 の意義(鹽尻六ノ九)

王文格 の氣字(一話六ノ二六)

王鳳洲 を論ず(駿臺信ノ三)

王勃(子安) か十三歳にして滕王閣序を作るの考(乘烟二ノ九)

王莽 の詩(一話二ノ三) 鏡の話(松話三)

王摩詰 の妙句(鹽尻五ノ〇)

王陽明 の六膽(隨意六ノ三)

の學評言五條(隨意二ノ六、七)

の學を馭す(駿臺仁ノ三)  
十一歳の詩(東厓上ノ三)  
往來を歩む心得(閑次四ノ三)

書名に—の字をつくる事(橘菴初ノ四)  
ノ二六(海錄八ノ四九)

任意といふ語(碩鼠四ノ二、四ノ附)  
といふ詞(松筆三〇ノ七)

ワカ

和歌「ウタ」歌ヲ見ヨ

若いか奇特といふ詞(嬉遊九ノ四)

稚郎子のよみ方(南留三ノ二)

若夷實(嬉遊ノ七)

若尾彌平治の勇剛(白秘二)

若木の下で笠をぬげといふ諺(喪志三)

若君童女名といふ(海錄一七ノ四七)

和學—の名稱は不當(卯花三ノ三六)

國學說(樞閣下ノ三)(閑池望)(年々六ノ二)(松筆五ノ七)

吾邦の典故學を國學といふ事(海鏡一ノ二)

國學をこそ學問といふべし(玉か一ノ三四)

國學の興起(閑池四九)

皇國經緯(閑池五〇)

水戸弘道館にて—を講す(閑室五ノ四七)

儒者の皇國の事をは知らずとてある事

(玉か一ノ三)

學規叔言(如蘭五ノ一)  
縣居のうしの御さとし言(玉か二ノ元)

縣居翁の古學(玉か三ノ三)

ある人のいへるこ(玉か六ノ四)

物學ひの心げへ(玉か〇ノ一)

復古學の譜(難江二ノ一)

「ヨク」國粹「シュ」儒者ヲモ見ヨ

若草のつま(安隨七ノ三六、一〇ノ三〇)(二上七)

和學者—と其著書の評(後言三)

和學者の弊(春波三)(年々六ノ二)

國學者の短所(甲子三ノ三)

國學者の無學(千清二七)

—好んで大古を説く(九桂五ノ九)

和學三傑の評(泊々元)

古學四傑の評話(泊々哭)

「カク」學者ヲモ見ヨ

わかくぬき 小歷木を—と訓む(白筆下ノ三)

我戀は松をしぐれの 蕪圓の—の歌は題詠

(況齋三ノ八)

我衣 解題(我衣一)

若狭小鯛「タセ」鯛ヲ見ヨ

わかさびたる様—といふ事(松筆二五ノ五)

和歌三神(安隨七ノ三)(安夜二ノ四)(閑自一ノ三)(松筆五ノ三)(嬉遊附ノ二)(橘窓三ノ三)

考(溫知叢書第十編ノ内)

及三聖(老牛上ノ九)(鹽尻五ノ四)

—をよめる發句(半日三ノ五)

和歌三神考 解題(溫知叢書第十編ノ内)

若し—を少壯の義となす事(隨意一ノ九)

和歌四天王の異名(傍廂二五)

若衆女郎—イウ遊女ヲ見ヨ

若鷲(松筆四ノ五)

—の名稱(卯花二ノ三〇)

儻(卯花二ノ三三)

徒士—の衣服と俸祿(柳菴三ノ一)

若菜 古(菘)をもてはやしし事(如蘭九ノ二)

—の詩歌(鹽尻七ノ四〇)

若菜集—の歌(甲子續二ノ七)(鹽尻三ノ三五)

和歌浦—の作者(奴風五)

和歌浦(松落二ノ三)

山邊赤人か—のうたの解(長頭六)

若の浦鶴—といふ書(如蘭三ノ二)

和歌博士(橘窓ノ四)

若林新七 淺見の弟子—(閑散上ノ元)

和合—の大切なる事(花月二)

南條主從父子の—(白秘六)

若水(孝經一ノ一)

井花水(白紳二ノ三)

若宮 女にも—といふ(安隨九ノ五)

若宮 尾州古屋—の社領(鹽尻五ノ八)

若宮天神(南留五ノ二)

わかむととり 源氏物語に見えたる—の本字(安隨九ノ六)

和布 鳴門—採の海人并福良の灰干

「メカ」和布ヲモ見ヨ

我宿はいつぬき川のそのかみのの歌に就て

(鹽尻関ノ七六)

和歌讀方抄 玄旨法印の——(鹽尻吾ノ八〇六)

倭漢合運 といふ書(松筆七〇九)

わかんどほり 王家統を——とよむ(閑耕四ノ七)

### ワキ

腋 の下のワキは一字(海録三ノ八七)

わきをかく といふ事(松筆七〇二六)

脇くさ (傍廂主)

脇坂氏 の家風ニ主人の居處にて客使者の取

次す、居屋敷の大門(甲子九ノ二七〇)

脇坂安重中務大輔 の盛衰(甲子七ノ二五)

の再勤、僧侶縮上る(續道六ノ一九三)

の歌(甲子續四ノ二六四)

脇差 「タウ」刀劍ヲ見ヨ

脇長之 か事并其文(攝關下ノ四)

脇ふさぎ 元和七年女御——の事(一話元ノ三九)

辨ふ

濟、弁濟、返濟なといふ事(松筆一〇六、六)

和君 といふ語(松筆二〇六、三)

脇門跡 の稱(橘窓九ノ二七〇)

「モン」門跡ヲモ見ヨ

### ワク

惑星 六——説(茶筆一ノ三〇)

和光同塵 といふ語(屠龍元)

和訓 「オン」音訓ヲ見ヨ

### ワケ

和氣 万葉集に見えたる——といふ稱(玉かハノ三)

和氣氏 醫家——の由緒(卯花三ノ七)

和氣清麻呂 か足筋を断れしといふ説(隣女二ノ二)

の薨去(鹽尻三ノ二六)

分士山 山城國——(鹽尻九ノ四七)

和氣仲世 の忠勤(銀屑三)

和氣眞長 春蘭軒(橘窓九ノ二六九)

### ワコ

和子 男子を——といふ(幽遠上ノ九)

倭寇 明末の——(九桂五ノ〇五)

といはれたる人々の名(説小ノ二五)

の作詩(如蘭ノ二六)

和國餅 と和國餅(明和二)

倭言 といふ熟語(松筆六ノ三)

和魂漢才 の説(閑池五)

### ワサ

わざくれ といふ詞(嬉遊九ノ五)(了阿上ノ三五)

と——橋(海録五ノ三四)

わざくれ橋 (そゝる三)

わざと といふ詞(安隨五ノ八)

天災は人自ら招く(雲津四ノ一六)

は欲より起る(松筆六ノ六〇)

移——於下(鹽尻一ノ四)

賣瓦翁の言(雲津三ノ九)

禍を逐ふの馬 といふ諺(海録三ノ三七)

禍始義皇一晝時の類句(賸餘一ノ七)

禍從口生 の出處(鹽尻三ノ三)(隣女二ノ三)

山葵控 古代の——(奇跡六)

の異裂(嬉遊三ノ上ノ七)

和讃 ——漢讚(玉か六ノ三)

の詞(松筆二五ノ三〇)

### ワシ

わし 私を——といふ(理齋五ノ二)

鷺に捫れし小兒救はれし話(閑次四ノ三)

浪士大——をしとむ(閑次四ノ三)

白——をとりし話(奥波五)

少年を攫んで薩摩より木曾まで、又、江州膳所より若狹まで飛ひし話(甲子續三ノ三七)

大——鼠一疋二文ツ、といふ店(續飛元)

和字 「ニホ」日本文字ヲ見ヨ

和州諸將軍傳 といふ書(喪志三)

鷺打 羽田の——(道聽三ノ四)

鷺尾武久(庄司) 一ノ谷の案内者——と其

孫(鹽尻三ノ五二〇)  
鷺尾經春(三郎) 嶋越に義經を案内せし—  
(甲子續六ノ三七三)

鷺神社 「トリ」西の市ヲ見ヨ

鷺津鷺巢氏 尾州—の由緒 (鹽尻九ノ五)

鷺取 の名稱(松筆二五ノ三)

鷺尾山 の櫻(笈埃五ノ九)

和字ノ狀 (松筆五ノ六)

鷺見山 (松筆七ノ九)

鷺見氏 の系圖(鹽尻二五ノ四〇)

和鶴雖不長生而針石不可謂非濟生之器(海錄  
二九ノ五四)

ワス

忘貝 —、忘草(鋸屑三)

忘草 (岡珠五)(松筆五ノ九、一〇六ノ空)(卯花  
五ノ四七)

軒の萱草(松筆二五ノ五)

忘れ草 「シオ」紫苑ヲ見ヨ  
をよめる歌(喪志二七)

忘れては世をすて顔の歌(甲子二ノ三〇)

忘れぬ夢 後久我大臣の—のうた(難江一  
ノ八〇)

わすれめや の本字(安隨六ノ元)

ワセ

早稻 早—とつかひたる例(難江五ノ四)

ワソ

倭俗 國俗を—と書く事(安隨七ノ四七)

ワタ

綿 造—者追考(如蘭七ノ八)

褐色—、綠色—(甲子喫ノ二七九)

法令—、もめん—、たう—(了阿上ノ三  
二)

つくしの—は身につけてとよめる歌(鹽  
尻六ノ一〇三)

「モメ」木綿ヲモ見ヨ

わたいり 「セン」膳部ヲ見ヨ

和田氏 の姓(白神二〇ノ六)(鹽尻六ノ四二)

綿打道具 (嬉遊三ノ上ノ七)

綿胭脂 「エ」繪具ヲ見ヨ

綿嚙 (松筆五ノ六三)

私 といふ詞(松筆三ノ三)

私の主 「シユ」主人ヲ見ヨ

わたくし物 「イン」陰莖ヲ見ヨ

綿車 —綿打弓槌(松筆七ノ二)

綿子 (玉か三ノ一〇)

和田惟政 (白神二〇ノ七)

渡し錢 (松筆三ノ九)

大河—の上り高(半日三ノ元)

渡し船 佃島—覆没(半日三ノ四)

古渡棹頭詩(甲子三ノ三) 同歌(甲子七  
三ノ一〇)

「カコ」籠波ヲモ見ヨ  
渡し守 の業、詠—詩(鹽尻四ノ五)

わたす 過度といふ詞(技癡三ノ七)

渡津 といふ地名(松筆八ノ八)

綿摘 「イウ」遊女ヲ見ヨ

和田長章 と其詩(甲子續六ノ四九)

渡邊永壽尼 の墓誌銘(一話三ノ二)

渡邊氏 の祖先(鹽尻二五ノ四四)

の稱(松筆九ノ八)

渡邊大江橋 (拾玉ノ一五)

渡邊幸菴 (一話六ノ五)(假世七〇)

渡邊幸菴對話記と著者—(甲子三ノ二  
七)

—の長壽(玄同三ノ中ノ二)

—の功名履歴(一話二ノ四)

—の祖先(一話元ノ五)

—の詠歌(一話元ノ六)

渡部競 の忠節(駿臺禮ノ二)

渡邊水庵 の客應接(白秘穴、見)

渡邊助兵衛 の義氣浪士の恥辱を雪ぐ(窓す  
一〇三)

渡部番 の節義(駿臺智ノ三)

渡邊綱 —略系、松浦侯の修墓(鹽尻九ノ  
七)

—の親、卒去年月、享年(鹽尻六ノ四七)

—の出生地(鹽尻二ノ六)

渡邊半藏 紀州の家老—の朱柄の鎗(甲子  
四ノ六)

綿に鍼をつゝむ といふ諺の類語(喪志二〇)

四月朔日氏 (松筆三ノ八)

綿の如くなる といふ事 (松筆三ノ三)

わたの原八十島 海を——といふ (圓珠三)

わたの原八十島 のうた (橘窓三ノ三五)

和田岬 攝州 (鹽尻三ノ四四)

綿帽子 (菟花七) (松筆三ノ三四)

狐綿、雪の綿、 (柳遺三六)

新婦の—— (嬉遊三ノ上ノ三四)

祖師の—— (親子三ノ六七)

をよめる歌 (羅月一ノ一九)

「ハウ」帽子ヲモ見ヨ

綿帽子賣 (塵塚五〇) (柳遺三三) (續飛三)

わたまし粥 「カユ」粥ヲ見ヨ

和田義盛 の亂は右府の密意を受けしか (甲子哭一ノ九〇)

度會氏 の祖神 (鹽尻三ノ五四)

度會姓 の秘本 (鹽尻三ノ四六)

渡會朝 賜 (談小三ノ二四)

度會延佳 のうた勅撰に入るへからず (安隨一ノ二)

度會延良 の學 (取等上ノ四六)

度會延良 の謹嚴 (橘窓六ノ三四)

渡り合川 (松筆九ノ三)

渡瀨 奥州——の氣候 (茶筆四ノ五)

わたくふるふ (羅月五ノ三七)

ワツ

僅 の字の用法 (眠雲一ノ七) (安隨五ノ八)  
わつこの梯 (松筆九ノ一九)  
わつそくにかけ といふ事 (松筆三ノ五)

ワタ—ワフ

わつば といふ詞 (麴庭上ノ三〇)

ワト

和同開珍 の珎の字 (難末一ノ三)

ワナ

ワナ の字 (談小一ノ五)

和雜集 色葉——并開居友の作者 (年打上ノ三)

ワニ

ワニ の一口 (鋸屑二〇)

ホアヤ (兎小中ノ二四)

孝子——を殺して仇を報す (磯傳六)

王仁 (安隨七ノ二) (兼爛一ノ一〇) (東屋下ノ二六)

の祖先 (安隨九ノ二) (二上三六)

の事蹟 (拾玉ノ三)

の塚 (談小五ノ三)

「アシ」脚ヲ見ヨ

鱈足 (桂林上ノ三) (南嶺四ノ六) (鹽尻六ノ五)

鱈口 (桂林上ノ三) (南嶺四ノ六) (鹽尻六ノ五)

の始 (二上六)

既に元應二年にあり (安隨二〇ノ一〇)

に關する故實 (卯花四ノ四)

を金鞍 (卯花一ノ三)

象頭山の——并圖 (雲錦一ノ二)

松尾社の——は半面なりとの説 (鹽尻六)

ノ六)

壬生寺の——と金鼓 (擁書一ノ二八)

享祿四年の—— (擁書四ノ三)

丸部 (難江七ノ五)

氏懸佛圖説 (如蘭六ノ二)

ワヌ

わぬし 汝を——といふ (鹽尻六ノ五七)

ワハ

和盤 の解 (兼爛五ノ二)

ワフ

和文 文のいるべ (三し卷ノ下)

文章の話 (松話四)

を學ふへき事 (長頭二)

は漢學の力なくては不可 (千清一六七)

の弊 (多波上ノ二)

強て文章に興あらせんとする弊 (くせ四)

上世中世下世の三體 (甲子續三ノ五)

物語ふみさうし日記どもの定め (三し下ノ二)

伊勢源氏の類を女子に讀ましむるの弊 (贈餘一ノ四)

和書の評 (花月二)

今の人歌文ひか言多き事 (玉かハノ七)

歌も文もよくとゝのふは難き事(玉か八ノ七)

—と漢文と文字の順序に相違ある事(安夜ノ五)

漢文を假字に書替たる文(千清二五)

かな文 旅路の日記(松落四ノ七)

一流の日本文章(一話四ノ九)

—の序に就て小林歌城の説(千清二五)

「ラン」文章「サク」作文ヲモ見ヨ

和文倉の棟札(一話二ノ六)

ワ

和名 なくして漢語を用ひしもの(南留三ノ三)

和名抄 といふ名(玉か二ノ六)

—の假字有疑者(難末セノ六)

—偽註考(如蘭九ノ二)

—の古抄本(遊京下ノ三)

櫻井君節手批の—(護小四ノ三)

和名抄考證 狩谷極齋の—は詳に過ぎるの辨(况齋一ノ九)

ワヤ

わやく といふ俗語(松筆六ノ五)

ワヨ

和輿(松筆九ノ二)

ワラ

草鞋(松筆六ノ二)

—の草の字(安隨五ノ三)

—、耳一ツの—(嬉遊三ノ中ノ二)

—圖(安隨二ノ四)

八ツ目の—(屠龍五)

大井川の川たちの—(海録三ノ三六)

草鞋くひ(玉か六ノ三)(松筆二五ノ三、二六ノ七)

(嬉遊三ノ中ノ二)

わらは 婦女自稱して—といふ(撈海上ノ二)

童といふ詞(松筆一〇ノ五六)

—といふ名稱、童男、童女、わらはめ(松筆三ノ三)

童隨身 「スイ」隨身ヲ見ヨ

童相撲 「スマ」相撲ヲ見ヨ

齊魯俗謂「爲齧」(隨意三ノ五九)

—の「ク」を抜く法(海録九ノ五六)

安藝國瀬尾村の—肥大(甲子續合ノ二四)

笑ひ草 といふ詞(幽遠上ノ二〇)

笑齒(松筆三ノ九)

笑平(ヒラ)といふ地(松筆五ノ三)

藤餅(藝苑一〇ノ七)

—笑話と狂言岡大夫聳(筠庭上ノ二六)

笑疾(閑次三ノ六)

藁布團 藁衾の施行及着心地(異聞九)

「ヨキ」夜着ヲモ見ヨ

割子 「ヘン」行厨ヲ見ヨ

わりぬし といふ俗語(安隨六ノ三)(安夜五ノ四)

割符 「フ」符ヲ見ヨ

ワル

悪さもの(一話五ノ四)

わるくしたし といふ詞(屠龍三)

悪口 人を誹るを—といふ(松筆七ノ七)

「ヒン」誹謗ヲモ見ヨ

われから といふ虫(閑耕三ノ三)(玉か三ノ

ワレ

元(茅窓中ノ二四)

茅窓漫録の説を駁す(高れ下ノ四三)

われて といふ歌語(年々ノ一九)

我とはなしに といふ句(鹽尻垂ノ三)

吾無隱乎爾 (四方花ノ九)

吾有知乎哉 (技癡ノ七)

我百爾九十 文王の言(況齋ノ四七)

### ワロ

優論語 の沙汰(松棟ノ三)

——は偽書なり(安隨ノ二四)(卯花ノ三)

——を引ける妄説(高れ上ノ四三)

### ワワ

わゝゝ といふ詞(松筆四ノ一九、二〇ノ五)

わしく心 (松筆六ノ六六)

わゝらば といふ詞(松筆二〇ノ六)

### ワン

椀 淺黄(嬉遊三ノ下ノ二五)

淺葱(骨董中ノ六)

黒、陸摩(嬉遊三ノ下ノ一九)

せいひつ の(海録三ノ七六)

坊主(嬉遊三ノ下ノ六)

河内古市玉一記(一話三ノ二六)

——の蓋「カサ」蓋ヲ見ヨ

椀をわる といふ詞(海録一ノ三)

椀久 ——豆時説、付、——の墓(嬉遊九ノ三)

——の墓并へうたにかしくの圖説(曲漫

下ノ七)

わんじゆ 念珠に用ゆる(海録四ノ三六)

椀青 の字解(鹽尻垂ノ二六七)

椀脱丘 及椀脱校郎の字解(鹽尻垂ノ六)

和諺 といふ詞(安隨三ノ七)

わんば といふ俗語の本字(隣女二ノ三)

### ン

ん 撥假字考(雄木五ノ二)

——文字(晤語上ノ五)(松筆空ノ二六)

——はんなり(昆陽七四)

——と「む」(碩鼠三ノ三六)